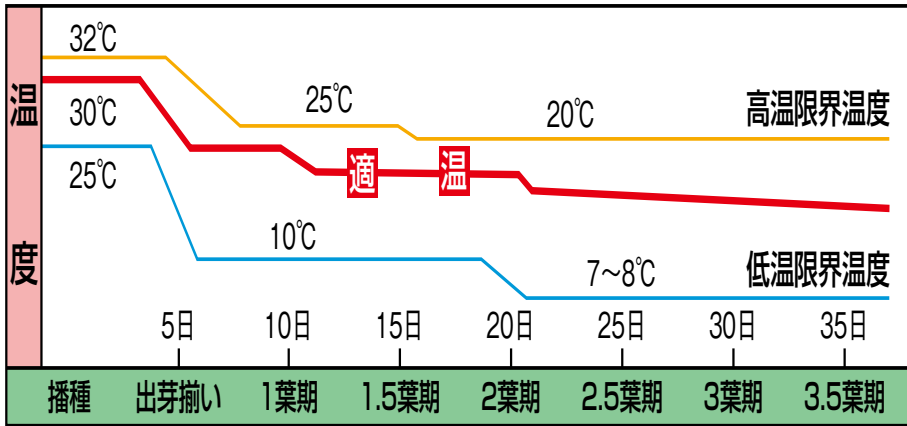


## 稲作

### 目標管理温度

播種から出芽までは30℃、出芽揃いまでは20～30℃を目標に、保温に努めましょう。ただし、ハウス内の温度が上がり過ぎる場合



▲温度管理表（無加温）

は、被覆資材除去前でもハウス内の換気を行い、30℃以上にならないようにしましょう。高温での管病の原因になります。日中は25℃前後、夜間は5℃以下にならないように管理しましょう。

### 追肥のめやす

苗の活力維持と充実度は、活着の善し悪しに影響します。中苗の場合、2葉期と3葉期の2回、稚苗の場合は1.5葉期に1回、液肥により窒素成分1g/箱の追肥を行いましょう。

### 省力型のいもち病対策

本田におけるいもち病の伝染源は、育苗施設から発病・感染苗を本田に持ち込むことや乾燥状態で冬を越した稲残さ（稲わら・籾がら）です。そのため、育苗施設周辺の稲わら・籾がらは撤去し、苗いもち防除と適切な葉いもち防除を確実に実施することで、穂いもちによる被害を防止し、本田防除の省力低コストとなります。

### ※注意

水稻で使用する農薬は、他の作物での登録が無かったり、残留農薬基準が低い場合があるため、水稻育苗後に野菜類等の作物を栽培する場合には注意してください。

## 【いもち病の基本的防除体系】 【葉いもち防除】

### 【苗いもち防除】

かん注	播種時～播種7日後頃
	■ベンレート水和剤
	500倍、500ml/箱 又は 1,000倍、1,000ml/箱
	緑化始期
	■ピームゾル
	500倍、500ml/箱

箱施用	移植3日前～移植当日
	■Dr.オリゼフェルテラ粒剤 50g/箱
	■Dr.オリゼダントツ箱粒剤 50g/箱
	■嵐ダントツ箱粒剤 50g/箱
	床土混和又は播種時覆土前～移植当日
	■ルーチンバリアード箱粒剤 50g/箱
	■ツインターボ箱粒剤 08 50g/箱

側条施用	移植時
	■側条オリゼメート顆粒水和剤 500g/10a
	■側条オリゼスタークル顆粒水和剤 500g/10a
	■コープガードW 12 20～50kg/箱

水面施用	6月15日頃
	■オリゼメート粒剤 3kg/10a



▲指導員が各ハウス等を巡回し、苗の状況を確認します。

※各地区における集落ごとの巡回時間・集合場所については、外務で配られる資料を参照してください。

- 開催時期・場所
- 4月24日(水) 榊・鶴形・松山地区
  - 4月25日(木) 東雲・東地区
  - 4月26日(金) 浅内・常盤地区
  - 4月30日(火) 二ツ井地区
  - 5月1日(水)～2日(木) 藤里地区

健苗育成に向けて、苗代巡回を実施します。

組合員からの相談や管理指導のため、苗代巡回を実施します。豊作の手始めは、まず苗作りからなので、きめ細やかな管理で健苗育成に努めましょう。